

ろうさい病院つうしん

病院情報誌 第15号 平成17年4月1日発行

発行所：中部労災病院

〒455-8530

名古屋市港区港明1-10-6

TEL 052-652-5511

FAX 052-653-3533

<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

救急医療の現状と 今後の展望



救急部部长 樋下田 稔昭



副部长 丸井 伸行
(循環器科部長)

<現 状>

当院は救急医療の充実を図るため平成12年10月に救急部を設立して以来、年間2,000例の救急車搬送患者数が平成16年までに3,000例余に増加しております。

この間、救急隊との合同症例検討会を行ったり一日救急隊員を務めさせていただくことで地域との連携を深め、院内においては若手医師を中心とした救急症例検討会、セミナー、ACLS講習会、救急救命センターへの研修派遣等で教育を推し進めてきました。このような体制整備を行い、24時間救急症例を受け入れる準備を整えております。

平成15年度には年間の救急患者数は15,000例に達し、このうち3,000余例が入院されています。当院の現状では救急患者の受け入れにはまだまだ余裕があり、新病院を迎えて今後とも更に万全の受け入れ体制を整えていく方針であります。

周辺病院との施設環境によって当院は現在3次救急指定を受けておりませんが、2次救急を主体としながら実質3次救急疾患を扱っております。心筋梗塞、脳卒中をはじめとするあらゆる疾病に、また頭部、脊椎、胸腹部を含む多発外傷、CPAにも対応しております。

現在の当直体制は内科系、外科系、産婦人科医師各1名と卒後1年目から3年目までの研修医3名の計6名で、水・土曜日には小児科医が当直しております。また院内HCU（集中治療室）にも当直医が配置され重症症例の受け入れを担っており、加えて各科担当医師がオンコール体制で控えております。

<今後の展望>

本年秋には新病院入院棟が完成し、その1階に救急外来は移動します。新救急外来にはオープンスペースに重症処置用ベッド3台、重症処置室1室、外来診察室3室、観察ベッド6床を有します。救急外来棟にレントゲン単純撮影装置とマルチスライスCTを設置して、迅速に安全な検査が可能となります。さらに救急外来から直接3階の血管造影室、手術室、ICU/CCUへの移動が可能となり、重症疾患に迅速に対応が可能となります。

新病院へ向けて、急性期疾患に対応する病院づくりを目標としております。その玄関口としての当院救急外来を是非ご活用下さい。

救急外来受診について

中部労災病院 救急外来（年中無休）

直通TEL&FAX：052-652-5863 ※紹介状は救急科宛

PEG (内視鏡的胃瘻造設術)の管理に関して



消化器科医師 相田 佳代

最近 は PEG (Percutaneous Endoscopic Gastrostomy、内視鏡的胃瘻造設術) キットが改良され造設が容易となり、また学会でも PEG に関連した発表が医師だけでなくコメディカルからも多数みられるなど、PEG に対して関心が高まりつつあり質のよい経腸栄養管理が増えていくものと思います。当院でも PEG 造設を日常的に行っていますが、一般的な管理に関して、チューブの劣化を考え PEG の交換は 3 ヶ月毎がよいと考えています。

またチューブの内腔に栄養剤がつき悪臭を放つヨーグルト状の付着物が発生しないよう酢酸(市販の酢を 10 倍で薄める)の使用をすすめています。PEG 造設はほとんどが問題なく経過しますが、時には造設後の栄養投与が困難な症例があります。そのひとつに PEG からの栄養投与に伴い誤嚥性肺炎を生じてしまう問題があります。原因としては、食道裂孔ヘルニアがあり食道へ容易に逆流してしまう場合や体が屈曲し十二指腸へ栄養剤が通過しにくい場合があげられます。

そのような症例には、PEG を利用して腸瘻を造設することも可能ですが、栄養剤投与に時間がかかる、チューブが細く詰まりやすい、施設によっては対応できないなどの問題があります。

そこで当院でも採用しているのは、栄養剤をかんてんやゼライスなどで固めてからシリンジにて投与する方法です。市販の固形化剤は固めにくいですが、かんてんやゼライスは安価でシリンジやコンロがあればゼリー状の栄養剤を簡単に作成できます。

PEG に関連して当院では、看護師、栄養士、薬剤師、医師からなる NST (Nutrition Support Team、栄養サポートチーム) や、PEG のスキントラブルを専門とする看護師も常勤しており、PEG の造設だけでなく造設後の管理までを総合的にサポートしています。是非ご相談ください。

TEL 052-652-5511
内線 251 (内科外来)

消化器科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	一宮 洋 部長	村瀬 賢一 部長	一宮 洋 部長 相田 佳代 医師	村瀬 賢一 部長	中江 治道 医師
午後	村瀬 賢一 部長		村瀬 賢一 部長		

透析外来の現状と展望



腎臓内科医師 渥美 宗久

中部労災病院透析室では月水金の午前・午後及び火木土の午前・午後の4クールにて約80人の血液透析を行っております。現在腎臓内科スタッフ4人、看護師11人、ME技師にて管理しております。

透析患者は増加する一方であり、ついに23万人を超えました。新規導入患者は年間3万人を超え、当院では昨年32人の血液透析導入がありました。

現在当院は、急性期病院としての役割を担っており、急性期の入院患者を中心とした血液透析を行っております。慢性維持透析の患者は満床であり、新規導入の方は近隣の透析施設に紹介させていただいております。また、時間的制約の少ない腹膜透析の指導にも力を入れております。

今後ますます透析患者は増加し続けると予想され、その中で透析導入前の保存療法の役割は非常に大きいと考えられます。

腎臓内科では腎不全教育入院パスを設け、2週間間に医師及び看護師による腎不全教育、薬剤師による服薬指導、栄養士による栄養指導を行っております。その中に透析室見学及び腹膜透析ビデオ視聴が組み込まれております。

透析室見学では実際に透析中の患者様を見ていただき、血液透析の仕組みから外来のシステムまで細かな説明をしております。腹膜透析・血液透析を実際見学することによって透析療法の現状の理解を深めていただいております。

腎不全保存療法では早期からの教育・指導が大変重要ですが、日々の外来診療ではなかなか良好なコンプライアンスを得ることが難しいのが現状です。

腎不全教育入院をご希望の方は腎臓内科へご紹介下さい。宜しくお願い致します。



(透析室全景)

TEL 052-652-5511
内線251 (内科外来)

腎臓内科

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
清水 英明 医師	藤田 芳郎 部長	藤田 芳郎 部長	渥美 宗久 医師	清水 英明 医師(午前) 伊藤 恭彦 医師(午後)

連携室だより

病診連携システムのご案内(更新)

中部労災病院の登録医になられた際に送らせていただきました「病診連携システム要項」ですが、この度システムの見直しを図り更新致しました。お手数ですが差し替えの程よろしくお願い申し上げます。

<更新のポイント>

☆タイトルの変更

- (旧) 病診連携システム要項
- (新) 病診連携システムのご案内

☆読みやすさ

システムの中身を要約することでボリュームを減らし、お知りになりたい情報を目次から全て検索できるようにしました。

☆予約の取りやすさ

全ての依頼票を変え、書式を統一しました。予約方法はP.1、P.2に示しております。細かい注意事項は各種依頼票へ載せておりますので1枚の用紙で予約して頂けます。

☆予約後のご案内について

患者さま向けに略図付きのものをFAXさせていただきます。来院時間や受付窓口を具体的に載せておりますので、患者さまに渡していただければ安心して受診して頂けます。

☆お問い合わせ

地域医療連携室が窓口となります。読みやすさを追及した為細かい説明を省略しております。ご不明な点がございましたら、お気軽にお電話ください。

☆土曜・日曜・祝日も可能な検査

終夜睡眠ポリグラフ検査は土曜・日曜・祝日にもご利用いただけます。詳しくはP.3をご覧ください。

☆平日19:30まで予約が可能な検査

- ・放射線科検査(単純撮影のみ)
- ・口腔インプラントCT
- ・内視鏡検査(胃カメラ)
- ・終夜睡眠ポリグラフ検査

平成16年度中部労災病院 病診連携システム運営協議会 ～ご報告～

中部労災病院病診連携システムの円滑な推進を図るため、平成17年2月5日(土)に名古屋ガーデンパレスにて運営協議会を開催致しました。名古屋市医師会の理事並びに運営協議会委員の方々にご出席いただきました。

意見交換会 ～ご報告～

登録医の先生方と親睦を深めるため、平成17年2月5日(土)に名古屋ガーデンパレスにおいて、意見交換会を開催致しました。ご多忙の中出席された先生方にこの場をお借りして厚くお礼を申し上げます。

☎地域医療連携室 (平日8:15~19:30)
052-652-5716 (FAX・TEL)
052-652-5950 (TEL)

室長：小林 建仁(副院長)
佐野 隆久(副院長)
事務担当：河野奈々・金井久実